



[伝統と進取の気風の地]

景 045 (H23) 歴 022 (H23)

明治期から昭和初期にかけて活躍した、日本を代表する七宝家であり帝室技芸員にも任命された並河靖之の自宅兼工房が「並河靖之七宝記念館」として、平成15年開館、世界の美術界でも貴重な並河家所蔵の七宝作品を展示しています。

通りに面して主屋が建ち、北東角には旧工房、その奥に旧窯場があります。主屋と旧窯場の間から主屋座敷前に琵琶湖疏水の水を取り入れ、7代目小川治兵衛（屋号「植治」）の作庭した庭園が広がります。

主屋は明治27年に建てられた大規模な表屋造りで、通りに面して千本格子や虫籠窓、駒寄せがあります。表屋造の背後には平屋の主屋をつなぐのが常ですが、ここでは2階建の主屋を連ね、鴨居を高くし、当時珍しかった輸入品のガラス障子をはめられ、明るく開放的な空間をつくっています。小屋組には屋根裏面と天井上面筋違が入れられ、背の高い2階屋を支えているため、伝統的な町家建築でありながら、構造上の新しい試みがなされています。

旧窯場は、入母屋椽瓦葺平屋建で、屋根は緩く起り、腰高に焼板を張るなど瀟洒な外観で、漆喰塗込の天井には窯場当時の仕様が残る貴重な建物です。



主屋玄関



旧工房